

構造物の補修・補強

広島フォーラムに300人 —コンクリートメンテナンス協会—

礎知識や最新事例に伴う
知見、最新の対策工など
の情報に耳を傾けた。

フォーラムは、(一社)コ
ンクリートメンテナンス協
会(徳納武使会長)の主
催、(公社)土木学会や(公
社)日本コンクリート工学
会などの後援により毎年
開かれているもので、イン
フラ老朽化対策の機運の
高まりもあって受講者は
年々増加。昨年は全国で
3000人を集め、今年
はそれを上回るペースで
参加者数を伸ばしている。

徳納会長は主催者挨拶
で、「コンクリート補修は
難しいと言われるが、現
地調査で『劣化機構』と

『劣化程度』を特定して
『要求性能』を決め、それ
を満たす補修工法を選定
する。このようなフローに
沿って取り組めば、決して
難しいものではない」と強
調。また、「本日は防錆剤
を使用した補修工法や塗
膜型剥落防止、支承狭隘
部への金属溶射技術など

も紹介するが、我々は特
定の技術の工法協会では
ない。今後有効な新技
術を議論し、推進してい
きたい」と述べた。

各地のフォーラムは通
常、2部構成となっている
が、広島フォーラムは5部
構成の豪華版。第1部で
はメイン講師の極東興和

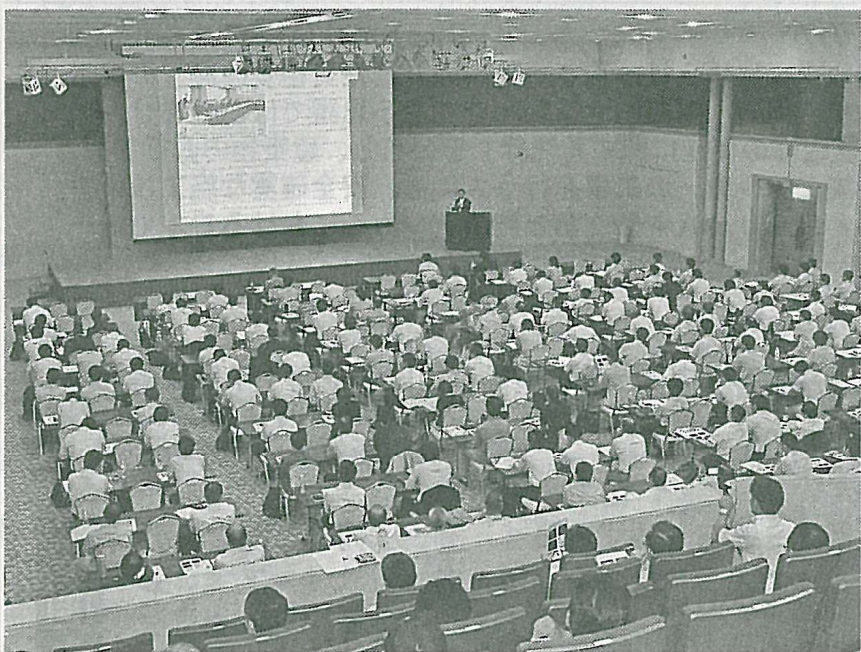
(株)・江良和徳氏が「コンク
リートの劣化と補修工法
選定の基本的な考え方」
をテーマに、代表的な劣化
事例とされる塩害、中性
化、ASRについて概要や
メカニズムを説明したの
ち、それぞれの補修工法
選定のための基礎知識を
伝授した。

また、2部では広島フォ
ーラムだけの特別講師と
して広島工業大学教授の
十河茂幸氏が登壇し、「コ
ンクリート構造物の長寿
命化について」を解説した
ほか、3部以降は各講師
が補修に有効な最新技術
を紹介。江良氏は「亜硝酸
リチウムを用いた塩害、
中性化、ASRの補修技
術について」と題し、劣化
抑制に効果がある亜硝酸
リチウムによる補修技術
の最新動向を、日本ペイン
ト販売(株)の中丸大輔氏は
特殊な塗料を塗るだけで
剥落を防止できる「コンク
リート剥落防止と塗膜型
剥落防止システムについ
て」、ダイクレ興産(株)の光
永浩一氏は、特殊ノズル
により橋梁狭隘部支承へ
のブラスト処理を可能に
する『支承リバイバルシ
ステム』について、それぞれ
説明した。

今年、全国20カ所で開催
予定の「コンクリート構
造物の補修・補強に関す
るフォーラム2014」
補修工法選定の考え方と
適応性」の11番目とな
る広島フォーラムが20日、
広島市中区の広島国際会
議場で開かれ、インフラ老
朽化対策に関心が深い官
庁、コンサル関係者ら約3
00人が受講。補修の基



あいさつする徳納会長



フォーラム会場